

# ワクチン接種のすすめ

## きき 感染症を 声なきに 知る

◆56◆

### 県感染症情報センター

予防接種（ワクチン）接種の意義は、ほとんどの方が理解されていると思います。「自分が感染しても重症にならない」と及び「周囲にうつさない」となどが目的です。でも、この他にもワクチンをお勧めする理由があり、今回はそのことについてお話しします。

▽免疫とは  
まず免疫について説明します。免疫とは、有害な異物が体内に入ると、それを異物と認識して排除する働きのことです。異物が体内に侵入すると、リンパ球が異物を直接攻撃したり、異物を排除するための「抗体（こうたい）」を作ったりして体内の異物を撃退し、消滅させようとします。治った後も一定量の抗体を持ち続け、さらにその異物を記憶し、次に同じ異物が入ってきた時に素早く抗体が作れるようになります。抗体がその異物を排除できる完全な防御抗体であった場合、「免疫ができた」と言えます。

▽生ワクチンと不活化ワクチン  
免疫ができるためには、病原体などが最低1回、体内に侵入する必要があります。しかし本物の病原体では危険な場合、その代わりに、病原体の力をかなり弱めた「生ワクチン」や、病原体をばらばらにした「不活化ワクチン」などで免疫を作ります。

不活化ワクチンは生きていた病原体ではないため、体内で増えることはありません。よって生ワクチン

よりも免疫ができにくく、複数回の接種が必要になります。

一方、生ワクチンは、相当弱めるといっても、病原体そのものです。一般に流行する病原体と同じように体内で増えて免疫を作ります。そのため、不活化ワクチンよりも接種回数は少なくよいのですが、2回接種し

て、しっかりと強い免疫を作ります。また病原体が体内で増えることから、ワクチンを受ける人の体調（他に感染がないか、妊娠していないか等）の管理が厳しくなります。

▽野生株とワクチン株  
生ワクチンは、生きた病原体そのものですが、一般に流行する病原体よりも感染力や毒性（重症化する）が特に弱い病原体を選んで使用しています。「野生株」といいます。

しかしワクチン株でも、野生株に感染した時のような症状や合併症が出ることもあり、これを

副反応と呼びます。ワクチンの副反応で有名なものに、「おたふくかぜワクチン」による無菌性髄膜炎があります。ワクチン接種の約3週間後に、無菌性髄膜炎を発症することがあります。ただしその発生頻度は、野生株に感染した時の方が25倍も高ま、症状も重いです。

▽安心を得るために  
重症化や合併症、予後の観点から、重要な疾患にはワクチンが開発され、接種が勧められています。昔と比べるとワクチン接種する人が増え、国内での野生株の流行はかなり少なくなっているため、ワクチンを接種しなれば免疫は獲得できなくなっています。免疫がないと、いざ野生株が流行した時や、海外に出かけた時に感染してしまう恐れがあります。

ワクチンで予防可能な疾患は、積極的なワクチン接種をお勧めします。特に現在では国立感染症研究所などが、妊婦の感染が原因の「先天性的風疹候群」の新たな発生をなくす「風しんゼロワロンエクト」を展開中で、男性にもワクチン接種を呼び掛けています。

ワクチンを接種しなくても感染しないという妙な自信を持つ方がいますが、その方は周囲の人が免疫を持っていること（集団免疫）により守られているだけなのです。（県感染症情報センター）

## 集団免疫で流行防止 合併症対策にも効果



「風しんゼロプロジェクト」のロゴマーク  
(出典＝国立感染症研究所ホームページ)

「風しんゼロプロジェクト」のロゴマーク

副反応と呼びます。ワクチンの副反応で有名なものに、「おたふくかぜワクチン」による無菌性髄膜炎があります。ワクチン接種の約3週間後に、無菌性髄膜炎を発症することがあります。ただしその発生頻度は、野生株に感染した時の方が25倍も高ま、症状も重いです。

▽安心を得るために  
重症化や合併症、予後の観点から、重要な疾患にはワクチンが開発され、接種が勧められています。昔と比べるとワクチン接種する人が増え、国内での野生株の流行はかなり少なくなっているため、ワクチンを接種しなれば免疫は獲得できなくなっています。免疫がないと、いざ野生株が流行した時や、海外に出かけた時に感染してしまう恐れがあります。

ワクチンで予防可能な疾患は、積極的なワクチン接種をお勧めします。特に現在では国立感染症研究所などが、妊婦の感染が原因の「先天性的風疹候群」の新たな発生をなくす「風しんゼロワロンエクト」を展開中で、男性にもワクチン接種を呼び掛けています。

ワクチンを接種しなくても感染しないという妙な自信を持つ方がいますが、その方は周囲の人が免疫を持っていること（集団免疫）により守られているだけなのです。（県感染症情報センター）